

キリスト教図像あれこれ——偶像崇拜をめぐる

民博 超域フィールド科学研究部 しんめん みつひろ 新免 光比呂



外壁にあふれ出たモルドバの教会壁画(ルーマニア、1997年)

には正式の教会ではないと考えられたことが影響して、四世紀中ごろから図像の使用が認められるようになった。
だが、八世紀から九世紀にかけてのビザンツ帝国では、当時勃興してきたイスラームの影響もあってか、偶像崇拜禁止の考えに基づいて破壊運動(イコノクラスム)が生じた。多くのイコンが破壊されたが、八四三年のコンスタンティノープル公会議でイコン崇拝が正式に認められ、ようやく決着がついた。
イコン崇拝を認める根拠は、感覚的なものは超感覚的なものを認識するために必要であり、イコンは単なるモノではなく、これとおして神そのものを崇拝する手段であるという考えである。イエス・キリストその人自体、神聖なものが人間の肉体となつてこ

ヨーロッパ展示
「宗教・信仰」セクション

ガラスイコン(ルーマニア、H0211497ほか)

南アジア展示
「宗教文化——伝統と多様性」セクション

サリーをつけた聖母子像(インド、H0276922、H0276924)

〈本館展示場〉

観覧券売場

アメリカ展示
「出会う」セクション

祭壇「パチャママの門」(ペルー、H0210691)

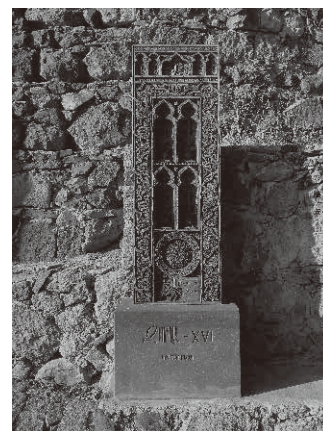
朝鮮半島の文化展示
「精神世界」セクション

聖母子像(大韓民国、H0214363)

世界各地で見られるキリスト教の図像
こういった点を踏まえて、キリスト教にかかわる図や像を探して展示場を歩いてみるのはどうだろうか。キリスト教徒がとて多い朝鮮半島の展示場では、伝統的な衣装を身に着けた聖母子像がある。同様に南アジア展示場では、インドの伝統衣装サリーを身に着けた聖母子像もあ

の世にあらわれたものであり(受肉)、目に見えない神がイエスという人の形をとることによって自らを証したというのと同じ論理となる。したがって、イコンはそれを客観的に眺め観賞するものではなく、イコンのなかの人物は真正面をむき、それを見る人はイコンのなかに参与すべきなのだと言われる。ぜひ展示場でご確認いただきたい。
同じイコンでも、ルーマニアのガラスイコンは「民衆的キリスト教」とでもいえるべき素朴な信仰理解を直截に表現している。「民衆的」であるといえるのは、ガラスイコンでは比較的自由なモチーフを描くことができるために、民衆の素朴なレベルで理解された信仰が単純な構図によって表現されており、また修道士に限らず農民などの世俗の間にも製作が許されていたからである。

ヨーロッパ展示場には、東方正教会で一般に用いられる板イコンとルーマニアで製作されたガラスイコンが展示されている。イコンということばは、もともとギリシア語で「像」を意味したが、一般には板イコンやガラスイコンといったキリスト教の崇敬対象をさすことが多い。板やガラスの上には、全能者キリストや聖母マリア(生神女マリア)、あるいは聖人、預言者などが描かれる。人物の表情が厳かでない顔つきである板イコンに対して、ガラスイコンではどこことなくユーモラスな構図が見られる。
イコン崇拝は東方正教会を他のキリスト教宗派から際立たせる神学的、外形的な特徴である。東方正教会では偶像崇拝が強く禁じられるため、立体的な彫像が否定される。それゆえ、カトリック教会によく見られる立体的な十字架のイエス像やマリア像は用いられない。聖書のみを信仰するプロテスタントでは、立像どころかイコンも偶像崇拝として拒否されるので、東方正教との違いが際立つ。
偶像崇拝の禁止とイコン
偶像崇拝の禁止は、そもそもユダヤ教における最重要な規則であった。当然ながら、初期キリスト教においても順守が求められた。しかし、キリスト教会に聖者の聖遺体・遺物を祭壇の下におさめる習慣が生じ、これなし



ハチュカルと呼ばれる特異なアルメニア十字架石碑(アルメニア、2013年)

る。イエスが生まれたパレスチナの風俗を離れて、キリスト教が布教される過程で聖母子のイメージが現地化した事例である。さらに、ヒンドゥー教の要素がとり込まれているという、仏教のモチーフかと思われような蓮の花と孔雀の上に立つ復活のイエス像がある。複数宗教の重層といえ、アメリカ展示場には聖母マリアと同一視されるアンデスの地母神パチャママを祀った祭壇「パチャママの門」がある。これはアメリカ先住民の信仰とキリスト教が融合したものである。
このように各展示場では、普遍を主張するキリスト教と現地の観念体系とが融合した、さまざまなキリスト教の図像が見られる。偶像崇拝の禁止というキリスト教の絶対的な理念が、人びとの実際の生活や教会の社会的性格から求められて変容していく姿に、生きた(生きられた)宗教の本質をうかがい知ることができるのではないだろうか。